

漱石の魅力

一本学所蔵自筆資料をめぐって

第一部「漱石の文字」

講師 西田 正宏 教授 (大阪府立大学)

第二部「肉筆原稿に見る夏目漱石の世界」

講師 青木 稔弥 教授 (神戸松蔭女子学院大学)

出典 国立国会図書館



【申込方法】 件名に「漱石の魅力 参加希望」、①本文に氏名（ふりがな）、②郵便番号・住所
 ③電話番号を明記の上、十一月九日までにEメールまたはFAXでお申込みください（定員五十名・先着順）。参加受付の連絡や受講票などの発行はしませんのであらかじめご了承ください（申込日より五営業日以内に本学から連絡がない場合は受講可能です）。

Eメール tosyo27@aou.osakafu-u.ac.jp FAX 072-254-9939
 お問合せ 072-254-9159 (学術情報室 平日 九時半～十七時半)

2018年11月21日(水)

14:00 - 16:30

大阪府立大学 I-site なんば 2階カンファレンスルーム

受講料：1,000 円 (資料代を含みます。当日受付でお支払いください。)

主催：大阪府立大学学術情報センター図書館、上方文化研究センター



漱石山房

第一部 「漱石の文字」



『猫の墓』 夏目漱石 自筆原稿
(大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵)

夏目漱石の自筆原稿は、かんたんに読めるのでしょうか？

江戸時代以前に書かれた古文書類と違い、漱石の原稿は「近代（明治）」のものである、いまの私どもと使用している文字も変わらないと思っている人も多いと思います。けれども、実際は、まったく異なっています。

本学所蔵の夏目漱石の自筆資料（「猫の墓」）を中心に、刊行されている漱石の自筆資料（はがきや『坊ちゃん』）なども参照しながら、漱石の使用した「文字」について考えます。

講師 西田正宏教授（大阪府立大学）

第二部 「肉筆原稿に見る夏目漱石の世界」

漱石肉筆の「なんでも鑑定団」的な美術品、骨董品としての価値は、一行十万円あたりを最低価格とするもののようにですが、それらとは少し距離を置いて、漱石の肉筆が夏目家からいかにして流出したかの問題、および、その肉筆資料を見ることが判明する漱石作品の魅力、漱石その人について考えます。

本講演での主たる題材は、大阪府立大学に所蔵されている漱石の自筆原稿『猫の墓』です。『猫の墓』は『吾輩は猫である』に繋がる作品でもあります。

『猫の墓』全十二枚で使用されている原稿用紙は特注の「漱石山房」箋（十九字×十行）で、掲載された「東京朝日新聞」のレイアウトに合わせたものでした。

万年筆マニアでもあった漱石の筆跡には彼自身の生々しい息づかいがあり、現在、普通に読まれているのとは異なる本文、文字遣いからは、創作のプロセス、秘密を感じることが出来るでしょう。

講師 青木稔弥教授

（神戸松蔭女子学院大学）

会場（I-site なんば）までのアクセス

- 南海電鉄 なんば駅
なんばパークス方面出口より約 800m、徒歩約 12 分
- 地下鉄御堂筋線 なんば駅
5 番出口より約 1,000m、徒歩約 15 分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線 大国町駅
1 番出口より約 450m、徒歩約 7 分
- 地下鉄堺筋線 恵美須町駅
1-B 出口より約 450m、徒歩約 7 分

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号
南海なんば第 1 ビル 2 階
(建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください。)

